

尺度使用マニュアル

<尺度名>

「成人用エフォートフル・コントロール尺度日本語版」

<測定概念>

エフォートフル・コントロールは、注意の制御能力の個人差を表す概念である。より正確には、「実行注意(executive attention)の効率を表す概念で、顕現して継続中の反応を抑制し、非顕在的な反応を開始したり、計画を立てたり、誤りを検出したりするための能力」と定義されている。以下の 3 つの下位尺度から構成される。①行動抑制の制御 (Inhibitory Control) : 不適切な接近行動を抑制する能力, ②行動始発の制御 (Activation Control) : ある行動を回避したい時でもそれを遂行する能力, ③注意の制御 (Attentional Control) : 必要に応じて、集中したり注意を切り替えたりする能力。

<適用範囲>

18 歳以上。

<尺度構成手続き>

Rothbart, Ahadi, & Evans (2000)の作成した Adult Temperament Questionnaire のうち、EC 尺度 35 項目について原著者の許可を得て日本語訳を行った。翻訳に際してはバックトランスレーションを行い、原著者により原版と項目内容が等しいと判断されたものを用いた。項目の追加・削除などは一切行っていない。

<信頼性>

α 係数は尺度全体で.90, 各下位尺度も.74~.84 であり、十分な内的一貫性があるといえる。再検査信頼性(3 週間)は尺度全体で.88, 各下位尺度も.79~.89 である。

<妥当性>

大学生 209 名を対象とした質問紙調査において、尺度全体の得点が TCI の新奇性追求($r = -.35$), 損害回避($r = -.35$), NEO-FFI の神経質($r = -.47$), 外向性($r = .24$), 開拓性($r = .07$, n.s.), 愛想のよさ($r = .13$, n.s.), 誠実さ($r = .72$), 抑うつ(SDS; $r = -.51$), 不安(STAI-S; $r = -.44$)とそれぞれ予測された相関パターンを示していた。この結果は、本尺度の構成概念妥当性を支持するものである(有意な相関係数はいずれも $p < .01$)。また、47 名を対象とした実験において、尺度全体の得点は、2 週間~1 ヶ月後に行われたストループ課題の干渉効果と負に相関していた($r = -.30$, $p < .05$)。この結果は、本尺度の基準関連妥当性を支持するものである。

<採点方法>

回答方法は、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. 少しあてはまる」「4. あてはまる」の4件法(件数は変更しないことが望ましい)。各項目の合計を尺度全体/下位尺度の得点とする。

<尺度の使用について>

教示文は、「以下の各文章は、あなたにどのくらいあてはまりますか。最も適当な数字を○で囲んでください」。

項目は改変すべきでない。また、項目の順番はランダムイズして使用すること。

<出典文献>

山形伸二・高橋雄介・繁榊算男・大野裕・木島伸彦(2005). 成人用エフォートフル・コントロール尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 14, 30-41.

<連絡先>

山形伸二(東京大学大学院総合文化研究科)

e-mail : yamagata@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

<無料・有料の別>

無料。

<著作権関連情報>

研究目的での使用は自由ですが、著者にご一報を頂けると嬉しいです。また、尺度を使用した場合は、利用を明記して頂くようお願い致します。